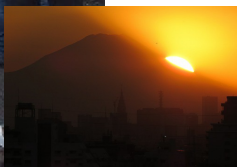




←二月三日、里見公園には多くのカメラマンたちがダイヤモンド富士を撮影するために集まった。ところが太陽はおおかたの予想に反し富士の山頂右側に沈んだ。



→矢切にはひと月あまりも雨が降らない。四日、は雨だという予報だが……。

二月四日は立春だった。このころから梅の花が咲きはじめ、しだいに暖かくなってくるころといわれている。

立春をまえに矢切の周辺は、ダイヤモンド富士を撮影するために、多くのアマチュアカメラマンたちでにぎわいをみせる。それというのも矢切あたりから見る太陽は、もつとも昼間が短くなる冬至の日の太陽は神奈川県にある大山の山頂に沈み、もとも昼間が長い夏至には群馬県と長野県との県境にある浅間山あたりに沈む。

そのかんに二度、富士山の山頂を通り過ぎて行く。立春のころがちょうどその時期にあたる。

二月二日のことだった。ダイヤモンド富士の撮影をしているというカメラマンの話聞いていたところ、

「昨日（二月一日）の太陽がちょうど山頂に沈んだよ」

「そうなの？ オレは今年立春が四日だということだ明日（二月三日）がそうなんだと思ってるんだけどなあ」

「そうはいうけど、こればかりは天気がよくないと見れないからなあ」

今週のクマ

→クマは矢切の渡しでは自由に歩き回る。江戸川の堤防下で遊ぶ。



→積み重なった落ち葉のあいだからキツネノカミソリが芽を出した。春から夏にかけて葉を伸ばし、葉が枯れると花芽をだして花を咲かせる。



「そうなんだよなあ、どんなに晴れていても富士山に雲がかかっていたらダメなものね」

「そうなんだよ。ま、明日の天気しだいだよなあ」

カメラマンたちの話を聞きながら三日の四時半過ぎに私はカメラマンたちが撮影スポットだと話していた高台に出かけてみた。するとそこには、すでに三十人ちかいカメラマンたちが三脚を立てて場所取りを済ませていた。

私はカメラマンたちの後ろにまじって太陽が沈むのを待った。詰めかけているカメラマンたちの会話に耳をかたむけてみると、ほとんどの人が知り合いのようで、それぞれに撮影スポットの情報を交換しあっている。

なかには一月一日の撮影はどこがいいとか、ここがいいとか話している。山梨県から長野県、東京都、埼玉県、茨城県とかなりの広範囲にわたっている。

二月三日、五時十分前。あたりは急に静かになった。太陽が富士山の山頂にかかり始めた。ところが、おおかたの意見と違って太陽は山頂をそれて向かって右側に沈んだ。大きなため息がもれた。